

富永神社祭礼奉納

とき 平成二十一年十月九日(金)  
 午後四時四十五分始  
 ところ 富永神社能楽殿

能組

仕舞 養老 白井里歩  
 七騎 落 榎本美月

仕舞 国栖 川村美幸  
 敦盛 加藤晃  
 敦盛 村田昂平  
 鞍馬天狗 今泉尚美

狂言 盆山 盗人 本田蓮汰 某 田中悠貴  
 後見 大原正巳

小舞 土車 加藤久和  
 暁 天野雅夫

仕舞 卷絹 島尚大郎  
 蟬丸 鳥居久仁子

仕舞 花筐 谷野允千帆  
 誓願寺 本田洋子  
 錦木 岩崎葉子

狂言 蚊相撲 大名 佐野泰三 太郎冠者 酒井淑規  
 蚊の精山 本 天野雅夫  
 後見

(休 憩)

5:50分頃

5:15分頃

5:00分頃

能 玉

シテ 清水利高

葛

ワキ 桜本泰朗

大鼓 河村総一郎  
小鼓 今岡アイ子

笛 今泉英三

問 大原正巳

後見 太田康弘

地謡

牧野共永修  
長田共永  
中嶋康夫  
渡辺敏康  
杉浦史佳  
森田高林  
高林白牛  
竹内声位  
高林白牛  
竹内声位

狂言 犬山伏

山伏 清川松佐

出家 水谷至男  
茶屋 山口俊一  
犬 天野雅夫

後見 酒井宏

シテ 鈴木崇史

能 狸

々

ワキ 太田研司

大鼓 清水利高  
小鼓 小林寿枝  
大鼓 中嶋康夫  
小鼓 今泉英三

後見 太田康弘

地謡

牧野共永修  
桜本泰朗  
長田共永  
渡辺敏康  
杉浦史佳  
森田高林  
高林白牛  
竹内声位

(終了予定八時四十分頃)

主催 本町区

あらすじ

狂言 盆山

盆山をたくさん持っている人に、いくら頼んでも一つもくれないので、男はこっそり盗みにやってきました。垣根を破り進入し、盆山を物色している所を見つけられます。物陰に隠れたが、盗人が顔見知りだとわかった主人は、きんぎんなぶります。犬かな？、猿かな？、……

狂言 蚊相撲

大名は新しい使用人を雇うことにし、太郎冠者に適当な者を捜しに行かせます。太郎冠者が街道で持っている、都で相撲取りになって人間の血を吸おうと考えている蚊の精に出会います。正体を知らない太郎冠者は、声をかけ連れ帰ります。喜んだ大名は早速腕前をみるため、大名みずから相撲の相手になりますが、蚊の精が本性を表し大名を一刺し、大名は目を回して。さて、どんな仕返しが出来ますか。……

能 玉葛

諸国一見の旅僧が、奈良の社寺を巡拝の末、初瀬の長谷観音へ参詣に出かけます。初瀬川の辺りまで来ると、一人の女性が、底も浅い山川の岩間伝いに小船に掉さしてやって来ます。不審に思って言葉をかけると、女は自分も長谷寺へ詣でる者ですと答え、「海士小船初瀬の川」と古歌にも詠まれていますから、船に乗っていても不思議ではありませんと答えます。僧を二本の杉へ案内し、玉葛内侍が筑波から都に逃げ上り、此所へ来たところ、母夕顔の侍女右近に巡り合ったことなどを語り、自分はその玉葛の亡霊であるとほめかして消え失せます。(中入)僧があわれに思って、読経していると、玉葛の亡霊が現れ出て、乱れた思いに狂い舞いまですが、やがて昔の事を懺悔して妄執を晴らし成仏したと見るや、僧の夢もさめました。

狂言 犬山伏

茶屋で休んでいる僧に、きあわせた山伏は横暴にも自分の肩箱を持ってと迫ります。みかねた茶屋の亭主が「私は獯猛な犬を持っています、祈りあつてなつた方が勝ちとしよう」と持ちかけます、茶屋は僧に「犬の名は 虎」と耳打ちします。経の中にとらを使い経を唱えれば良いと教えられます。さて、犬の反応はどのようになりますか。……

能 猩猩々

中国の金山カネキンサンの麓に、高風という大そう親孝行で評判の高い男がいました。彼はある夜不思議な夢を見ました。それは楊子の市に出て酒を売ると、富貴の身になるといのです。その夢の通りにすると、なるほど次第に金持になりました。ところで、市の立つごとに高風の店に来て酒を飲む者がいます。その男はいくら飲んでも顔色が一向に変わらないので、ある日その名を尋ねると、地中に住む猩猩だと明かして帰って行きました。そこで高風は、ある月の美しい晩、今度は潯陽の江のほとりに出、酒壺を置き、猩猩の出でくるのを待つことにします。(ここまでの経過をワキ高風が一人で語り、能はここから始まります) やがて猩猩は、葉の水とも菊の水とも呼ばれる銘酒の味をしたい、良き友と会う事を樂しみに、波間から浮かび出て、高風と酒をくみかわします。折から空には月も星もくまなく輝き、岸辺の芦の葉は風に吹かれて笛の音を奏で、波の音は鼓の調べのように響きます。この天然の音楽にのつて、猩猩は舞い出します。そして、高風の素直な心を賞し、汲めども尽きぬ酒壺を与え、消えてゆきます。